

食料共生システム学専攻

Agricultural Engeneering and Socio-Economics

食料環境経済学講座

Food and Environmental Economics

## 食料経済学分野

本教育研究分野では、経済発展に伴うフードシステムの変遷や食料・農業政策の歴史的展開過程と現在の政策について研究している。最近の主要な研究課題は、①農林水産行政の政策評価問題：農林水産省や兵庫県における農林水産行政の評価問題について、その展開過程、評価方法、直面する課題について考察するとともに、評価結果を政策立案に反映する方法について研究している。②グローバリゼーション進行下における地域農業の変容：グローバリゼーションにともなう農産物輸入の増加や農産物価格の下落、農業保護の削減が地域農業に与えた影響を考察するとともに、食と農のローカリゼーションの推進方策について研究している。③丹波黒を基軸とした地域産業複合体の形成の可能性に関する研究：篠山市における丹波黒大豆の産地形成過程の分析と現在直面する生産課題の解決方策及び地域産業複合体の形成の可能性を調査・研究している。④広域営農組合の現状と課題：八幡営農組合の事例について広域営農組合誕生の経緯と経営の現状、組合員の八幡営農組合に対する評価、直面する課題について調査・研究している。⑤「食の外部化」など家事サービスの市場化をもたらす要因と影響の解明：経済成長に伴って食料需要を変化させる要因として、実質所得の増加による食料消費の高級化に加え、時間の価値が高まることによって生じる摂取形態の変化に着目し、それが日本の食料需要に及ぼす影響を解明した。

### 1. 公表学術論文

#### 著書

- 加古敏之（2005）：経済発展とコメ経済，泉田洋一編，近代経済学農業・農村分析の50年，農林統計協会，東京，pp.201-227
- 草苺仁（2005）：食料消費と家族形態，清水昂一・小林弘明・金田憲和編著，コメ経済と国際環境，東京農大出版会，東京，pp.97-112
- 草苺仁（2005）：伸縮的手法と伸縮的思考，泉田洋一編，近代経済学農業・農村分析の50

- 年，農林統計協会，東京，pp.159-169
- 中塚雅也（2007）：都市とむすんだ新しい地域マネジメント，高橋信正・金澤洋一編著，田舎のちから，昭和堂，pp.22-31，
- 中塚雅也（2007）：マチに田舎を貸そう，高橋信正・金澤洋一編著，田舎のちから，昭和堂，pp.237-247

#### 原著論文

- 加古敏之・初川信介（2007）：広域営農組合の現状と課題ー八幡営農組合の事例分析ー，2007年度日本農業経済学会論文集，pp.83-89
- 加古敏之（2006）：グローバリゼーションと地域農業の変容，農林業問題研究，161，pp.6-15
- 加古敏之（2006）：グローバリゼーションと北東アジアの農業，農業と経済，72（4），pp.37-43
- 仁平章子・加古敏之（2006）：農村女性のキャリア形成に関する研究ー農村女性のキャリア形成を構成する要素について検討ー，農林業問題研究，162，pp.74-78
- 野口真弓・加古敏之（2005）：中国からの畳表の輸入急増が国内の産地に与えた影響と政策対応，農林業問題研究，162，pp.207-210
- 加古敏之（2005）：農林水産行政の政策評価，農林業問題研究，41（1），pp.105-109
- Kako, Toshiyuki (2004) : The Roles of Agricultural Project at FAO, Agricultural Economic Papers of Kobe University, 37, pp.59-68
- 原浩太・草苺仁（2007）：米作の費用関数分析と要素代替の弾力性，2007年度日本農業経済学会論文集，pp.1-5
- 中川聡司・草苺仁（2007）：農地貸借と戦略的行動，2007年度日本農業経済学会論文集，pp.127-133
- 住本雅洋・草苺仁（2007）：野菜の調理と価格弾力性，

- 2007年度日本農業経済学会論文集，pp.239-242
- 草苺仁（2007）：食生活の志向に関する需要分析，2007年度日本農業経済学会論文集，pp.243-247
- 谷頭子・中祐子・草苺仁（2007）：食料および非食料輸入の需要体系分析，農林業問題研究，43（1），pp.146-150
- 阪本亮・中祐子・草苺仁（2007）：家計における生鮮果物消費の減少要因，農林業問題研究，43（1），pp.151-155
- 草苺仁（2007）：世帯規模効果と双対理論，神戸大学農業経済，39，pp.11-16
- 住本雅洋・草苺仁（2007）：日本における米国産大豆の輸入価格と米国の価格・所得支持制度，神戸大学農業経済，39，pp.25-30
- 中川聡司・草苺仁（2007）：農地流動化と土地市場の特性，神戸大学農業経済，39，pp.31-36
- 長谷部杏子・草苺仁（2007）：調理技術と食の外部化，神戸大学農業経済，39，pp.37-42
- 阪本亮・草苺仁（2007）：牛肉の市場価格と関税および為替レートBertrand-Nashモデルによる波及効果の分析ー，神戸大学農業経済，39，pp.43-48
- 谷頭子・草苺仁（2007）：家計における生鮮および非生鮮食料の需要体系分析，神戸大学農業経済，39，pp.49-54
- 草苺仁（2006）：家計生産の派生需要としての食材需

要関数の計測, 2006 年度日本農業経済学会論文  
集, pp.139-144  
住本雅洋・草苺仁 (2006): 食の外部化からみた生鮮  
野菜の需要分析, 2006 年度日本農業経済学会論  
文集, pp.145-150  
草苺仁 (2006): 食の外部化と家族機能, 2005 年度日  
本農業経済学会論文集, pp.271-275  
遠藤幸祐・草苺仁 (2006): 米作の生産関数分析と要  
素分配率, 2005 年度日本農業経済学会論文集,  
pp.166-171  
住本雅洋・草苺仁 (2006): 食の外部化と野菜需要,  
2005 年度日本農業経済学会論文集, pp.281-285  
住本雅洋・草苺仁 (2006): 家計消費における食料と  
余暇の弱分離可能性, 神戸大学農業経済, 38,  
pp.17-23  
中川聡司・田淵泰匡・草苺仁 (2006): みかん価格の  
変動とオレンジの輸入自由化, 神戸大学農業経  
済, 38, pp.33-40  
長谷部杏子・城山のぞみ・草苺仁 (2006): 生鮮野菜  
の需要減少と食の外部化, 神戸大学農業経済,  
38, pp.41-46  
遠藤幸祐・草苺仁 (2004): 減反政策と稲作経営安定  
対策の整合性, 2004 年度日本農業経済学会論文

## その他の学術論文等

加古敏之 (2006): 日本における食糧管理制度の展開  
と米流通, 伊東正一編著, 危機に瀕する世界の  
コメ—その2—世界の学校給食とコメ消費: 日  
米台湾タイの現状と可能性 一, 科学研究費補助  
金報告書, pp.155-183  
Shoichi Ito and Toshiyuki Kako (2005): Rice in the World  
Verging on a Grave Crisis, Farming Japan, 395,  
pp.10-33  
加古敏之, 金子治平 (2005): 中越地震災害時にお  
ける食料問題と農業関連被害, 平成 16 年度突  
発災害調査報告書, 神戸大学都市安全研究セ  
ンター, pp.93-103  
加古敏之 (2005): 黒龍江省における稲作の発展と  
課題—農墾区を中心にして—, 学際研究に基  
づく世界の穀物需給長期予測, 科学研究費補  
助金研究成果報告書, pp.49-70

## 2. 学術講演

加古敏之, 羽田幸代, 宇野雄一, 中塚雅也  
(2007): 産地形成過程と現段階における課  
題—篠山市の丹波黒を事例として—, 第 57  
回地域農林経済学会報告要旨, p.61, 石川  
県立大学  
内平隆之, 中塚雅也, 加古敏之 (2007): 農学分  
野における地域連携の枠組みと展望—神戸  
大学大学院農学研究科と篠山市の連携を中  
心として—, 第 57 回地域農林経済学会報告  
要旨, p.78, 石川県立大学  
宇野雄一, 中塚雅也, 加古敏之, 千藤貴博, 羽田  
幸代, 星野敏 (2007): 黒豆生産に関するナレ  
ッジの特性と管理の方向性—兵庫県篠山市を事  
例として—, 2007 年度農村計画学会学術研究発

集, pp.153-156  
成旁旭・草苺仁 (2004): 韓国における牛肉の供給変  
動が品質差別化と自給率に与える影響, 2004 年  
度日本農業経済学会論文集, pp.408-412  
中塚雅也・星野敏 (2007): 小学校区における自治組  
織の課題と再編の方向性—兵庫県篠山市草山地  
区を事例として—, 農村計画学会誌, 26 論文特  
集号, pp.299-334  
横山玖洙・中塚雅也 (2007): 地域インターンシップ  
精度の設計と運用に関する一考察—島根県隠岐  
郡海士町の商品開発研修生制度を事例として—,  
農村計画学会誌論, 26 論文特集号, pp.281-286  
山口創・中塚雅也・星野敏 (2007): 農村集落の社会  
的特性と定住に関する実証的分析—兵庫県篠山  
市を事例として—, 農村計画学会誌, 26 論文特  
集号, pp.287-292  
板倉礼実・星野敏・中塚雅也 (2007): 子どもを介し  
た保護者のネットワーク形成と地域活性化, 農  
村計画学会誌, 26 論文特集号, pp.293-298  
中塚雅也 (2007): 農業分野における NPO 法人の区  
分と運営特性, 神戸大学農業経済, 神戸大学農  
学部, 39, pp.17-24

加古敏之 (2005): 下げ止まらない日本のコメ消費  
減退と今後の見通し, 危機に瀕する世界のコ  
メ—その現状と課題, そして可能性, 科学研  
究費研究成果報告書, pp.21-38  
加古敏之 (2005): 自治体農政の評価システムの構  
築に関する研究, 平成 15~16 年度科学研究費  
補助金研究成果報告書, pp.1-54  
加古敏之 (2004): FAO における ROA プロジェク  
ト, 農林業問題研究, 40 (1), pp.48-49  
草苺仁 (2007): 食料自給率向上の理論的根拠と政  
策シミュレーション, 科学研究費補助金報告  
書  
中塚雅也 (2007): 地域づくりリーダーの特性と育  
成に関する研究, 平成 18 年度調査報告書,  
(財) 兵庫地域政策研究機構, pp.233-271

表会紀要集, pp.13-14, 東京大学  
仁平章子・加古敏之 (2006): 農村女性のキャリア  
形成に関する研究—農村女性のキャリア形成  
を構

成する要素について検討—, 第 55 回地域農林  
経  
済学会報告要旨, p.109, 三重大生物資源経  
済学部  
野口真弓・加古敏之 (2006): 中国からの量表の輸  
入急増が国内の産地に与えた影響と政策対応,  
第 55 回地域農林経済学会報告要旨, p.96, 三  
重大生物資源経済学部  
加古敏之 (2005): 下げ止まらない日本のコメ消費  
減退と今後の見通し, 日本学術会議・農村計画

- 学研究連絡委員会主催・世界のコメ学際研究グループ共催,世界のコメ・国際学術調査研究報告会・シンポジウム, 日本学術会議ビル
- 加古敏之 (2005): 農林水産行政の政策評価, 第 54 回地域農林経済学会大会報告要旨集, p.92, 滋賀県立大学農学部
- Kako, Toshiyuki (2005): Trend of Rice Consumption in Japan”. Workshop on Rice Consumption Promotion Strategies in Asia, Organized by Faculty of Economics, Kasetsart University, Thai Rice Foundation under Royal Patronage and Tottori University, Japan, January 7, 2005, at Kasetsart University, Thailand
- Kako, Toshiyuki (2004): Trend of Rice Consumption in Japan. 2004 Korea-Japan Joint Symposium on Rice Consumption Promotion Strategies, Korea University, pp.1-4
- 原浩太・草苺仁 (2007): 米作の費用関数分析と要素代替の弾力性, 2007 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.K1, 沖縄国際大学 5 号館
- 中川聡司・草苺仁 (2007): 農地貸借と戦略的行動, 2007 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.K32, 沖縄国際大学 5 号館
- 住本雅洋・草苺仁 (2007): 野菜の調理と価格弾力性, 2007 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.K56, 沖縄国際大学 5 号館
- 草苺仁 (2007): 食生活の志向に関する需要分析, 2007 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.K57, 沖縄国際大学 5 号館
- 谷頭子・中祐子・草苺仁 (2006): 食料および非食料輸入の需要体系分析, 第 56 回地域農林経済学会大会報告要旨, p.89, 桃山学院大学教室棟 3 号館
- 阪本亮・中祐子・草苺仁 (2006): 家計における生鮮果物消費の減少要因, 第 56 回地域農林経済学会大会報告要旨, p.90, 桃山学院大学教室棟 3 号館
- 草苺仁 (2006): 家計生産の派生需要としての食料需要関数の計測, 2006 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.K58, 明治大学駿河台校舎リパティタワー
- 住本雅洋・草苺仁 (2006): 食の外部化からみた生鮮野菜の需要分析, 2006 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.K59, 明治大学駿河台校舎リパティタワー
- 住本雅洋・草苺仁 (2005): 食の外部化と野菜需要, 2005 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.9, 北海道大学高等教育機能開発総合センター
- 遠藤幸祐・草苺仁 (2005): 米作の生産関数分析と要素分配率, 2005 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.14, 北海道大学高等教育機能開発総合センター
- 草苺仁 (2005): 食の外部化と家族機能, 2005 年度日本農業経済学会大会報告要旨, p.44, 北海道大学高等教育機能開発総合センター
- 中塚雅也 (2007): 経験と属性による地域コミットメントの相違に関する実証的分析-篠山市 K 地区を事例として-, 第 57 回地域農林経済学会大会報告要旨集, p.79, 石川県立大学,
- 山下良平・中塚雅也・星野敏 (2007): マルチエージェント分析による集落自治組織再編の評価, 第 57 回地域農林経済学会大会報告要旨集, p.76, 石川県立大学
- 中塚雅也・星野敏 (2007): 小学校区における自治組織の構造的課題と再編の方向性, 2007 年度農村計画学会秋期学術研究発表会報告要旨集, p.19, 岡山大学
- 横山政洙・中塚雅也 (2007): 地域インターンシップ制度の設計と運用に関する一考察, 2007 年度農村計画学会秋期学術研究発表会報告要旨集, p.16, 岡山大学
- 山口創・中塚雅也・星野敏 (2007): 農山村集落の社会的特性と定住の関係, 2007 年度農村計画学会秋期学術研究発表会報告要旨集, p.17, 岡山大学
- 板倉礼実・星野敏・中塚雅也 (2007): 子どもを介した保護者のネットワーク形成と地域活性化, 2007 年度農村計画学会秋期学術研究発表会報告要旨集, p.18, 岡山大学
- 山口 創・宇野雄一・中塚雅也・千藤貴博 (2007): 黒大豆の栽培知識の所在傾向と管理の方向性-兵庫県篠山市を事例として-, 平成 19 年度日本農業経営学会研究大会, 東北大学
- 中塚雅也・星野 敏 (2007): 多様な担い手間における地域ナレッジの差異と共有化-篠山市 K 地区を事例として-, 平成 19 年度日本農業経営学会研究大会, 東北大学
- 山口 創, 中塚雅也, 星野 敏 (2007): 集落のソーシャル・キャピタルと定住促進に関する一考察-兵庫県篠山市を事例として-, 2007 年度農村計画学会学術研究発表会紀要集, pp.6.1-62, 東京大学
- 宇野雄一, 中塚雅也, 加古敏之, 千藤貴博, 羽田幸代, 星野 敏 (2007): 黒豆生産に関するナレッジの特性と管理の方向性-兵庫県篠山市を事例として-, 2007 年度農村計画学会学術研究発表会紀要集, pp.13-14, 東京大学

### 3. 博士・修士号取得者の氏名および論文題名

博士 (2004 年 9 月)

成 旁旭: 消費者の品質志向と農産物需要に関する計量経済学的研究-日本における米と韓国における牛肉の市場分析-

修士 (2006 年 3 月)

仁平章子: 農村女性のキャリア形成に関する研究-

家族経営協定に焦点を当てて-

阪本聡子: 食の外部化と家計内公共財の機能

修士 (2005 年 3 月)

Andonov Ivan Georgiev: Analysis of Bulgarian Agricultural Policy Reforms in Transition Period

#### 4. その他の学術研究活動

##### 研究助成金

農林水産省・先端技術を活用した農林水産高度化事業

業、加古敏之（分担）：ナレッジマネジメントを導入したコミュニティ再生手法の開発，2006-2008 年度

科学研究費補助金基盤研究(C)，加古敏之（代表）：政策評価を活用した自治体農政の改革に関する研究，2005-2007 年度

篠山市と神戸大学との官学地域連携研究，加古敏之（代表）：黒大豆を基軸とした地域産業複合体形成の可能性に関する研究，2007 年度

科学研究費補助金基盤研究(A)(1)，加古敏之（分担）：世界におけるコメの消費拡大・普及戦略に関する学際的総合研究，2004-2006 年度

科学研究費補助金基盤研究(C)，加古敏之（代表）：自治体農政の評価システムの構築に関する研究，

2004 年度

科学研究費補助金基盤研究(C)，草苺仁（代表）：国産および輸入食料の需要体系分析による国産食料志向の研究，2007-2008 年度

科学研究費補助金基盤研究(B)，草苺仁（分担）：少子高齢化社会における食の安全性とフードシステムーその経済学的解明ー，2007-2009 年度

科学研究費補助金基盤研究(B)，草苺仁（分担）：コメ市場の自由化に向けた生産対応と政策設計のための計量経済学的研究，2006-2008 年度

科学研究費補助金基盤研究(C)，草苺仁（代表）：食料自給率向上の理論的根拠と政策シミュレーション，2004-2006 年度

農林水産省・先端技術を活用した農林水産高度化事業，中塚雅也（2006 年度：分担，2007 年度：代表）：ナレッジマネジメントを導入したコミュニティ再生手法の開発，2006-2008 年度

##### 学外研究機関との共同研究

加古敏之：現代経営大学，移行期にあるハンガリー農業の環境問題，2004 年

中塚雅也：丹波地域集落活性化調査，（財）兵庫丹波の森協会，2006-2007 年度

##### 学会活動

加古敏之：地域農林経済学会：常任理事・企画担当，2004-2006 年度

中塚雅也：農村計画学会査読研究委員会査読委員

##### 社会活動

加古敏之：兵庫県農林水産部：兵庫県農林水産政策審議会会長，2004-2007 年度

加古敏之：国際協力事業団，植物保護のための総合防除集団研修コースⅡ，研修講師，2004-2007 年度

加古敏之：兵庫県農林水産部：中山間地域等直接支払制度推進委員会・委員，2003-2007 年度

加古敏之：社団法人兵庫みどり公社運営委員会・委員長，2004 年度

加古敏之：神戸市：神戸市農漁業ビジョン 2010 推進会議・委員，2006-2007 年度

加古敏之：兵庫県水田農業戦略会議・委員，2004-2006 年度

中塚雅也：神戸町田園空間博物館基本構想検討委員会アドバイザー，兵庫県神戸町，2007 年

中塚雅也：長寿社会プラン策定委員会委員，兵庫県，2006 年度

中塚雅也：丹波市若者定住施策策定アドバイザー，兵庫県丹波市，2006 年度

中塚雅也：NPO 法人食と農の研究所，理事，2003 年度-

#### 食料生産管理学分野

当分野は、人々が一日も欠かせない食料を長期にわたって持続的に生産しうる多様な農業技術と農業経営のあり方、ならびに生産者と消費者の持続的な関係について研究することを目的とし、主として協同組合および地域農業組織の経営・管理および有機農業に関わる諸問題の解明に取り組んでいる。具体的には、農協の広域合併問題、地域農業の米政策改革大綱への対応、新 J A S 制度下の有機農産物の流通問題等、現在、我が国農業が直面する問題へのアプローチとして、農協による営農活動の充実・強化、集落営農の展開、農協や生協の組織力強化や両者による産消提携活動の可能性等について経済学や経営学、会計学の手法をもちいて研究を進めている。

#### 1. 公表学術論文

##### 著書

高田理・古塚秀夫 (2007) : 農業簿記 [改訂版], 全国農業協同組合中央会, 東京, pp.1-172  
 高田理 (2007) : マチに届ける食の安全・安心, 高橋信正・金澤洋一編著, 田舎のちから一人/資源/環境/交流一, 昭和堂, 京都, pp.42-50  
 高田理・中山昌美 (2007) : 田舎が活かす老人力, 高橋信正・金澤洋一編著, 田舎のちから一人/資源/環境/交流一, 昭和堂, 京都, pp.13-21  
 高田理 (2007) : 協同組合運動は農業・農村を守れるか, 大隈満・中道仁美・村田武編著, ゼミナール 現代社会と食料・環境・農業, 農山漁村文化協会, 東京, pp.71-81  
 高橋信正・新谷正彦・高田理 (2004) : スカブミ県チサアート郡の農家経済, 本台進編著, 通貨危機後のインドネシア農村経済, 日本評論社, 東京, pp.59-71  
 高田理・高橋信正 (2004) : 農民グループと村落ユニ

### 原著論文

高田理 (2007) : 協同組合における定性分析による経営評価の意義と課題, 協同組合経営研究誌にじ, 617, pp.5-14  
 高田理 (2006) : 農協の組織・運営の現状と進むべき方向, 農林金融, 59 (7), pp.16-26  
 高田理 (2005) : 農協の「協同会社化」一動向と論点一, 協同組合研究, 24 (2), pp.20-27  
 高田理 (2005) : J Aにおける支所・支店のあり方と再編方向, 農業と経済, 71 (7), pp.77-85  
 高田理 (2004) : 「協同会社化」成功の条件と課題, 農業協同組合経営実務, 59 (13), pp.60-65  
 高田理 (2004) : 購買事業改革と協同会社の課題, 農業と経済, 70 (9), pp.44-53  
 伊庭治彦・本田恭子・小田滋晃 (2007) : 地域ぐるみ共同活動への参加意欲の形成要因と組織管理に関する考察, 農林業問題研究, 166, pp.107-111  
 伊庭治彦 (2007) : 『定住農業』と『農業定住』一中山間地における集落営農の事業多角化の機能に関して一, 神戸大学農業経済, 39, 神戸大学, pp.1-10  
 伊庭治彦 (2006) : 水田農業政策の転換と地域農業振

### その他の学術論文等

高田理 (2007) : 集落営農の設立及び運営に向けた指導支援体制, 地域農場づくりの新たな戦略について, 農の担い手確保・育成・京都府農村振興課, pp.39-40  
 高田理 (2006) : 高齢者も立派な地域農業の担い手, 兵庫自治学会会報 Policy, p.4  
 高田理 (2006) : 県単一 J A構想の検討, J Aグループ栃木の将来ビジョンに関する調査研究報告書, 社団法人農業開発研修センター, pp.208-230  
 高田理 (2005) : 農協の組織, 農協の運営と経営, 農協組織・経営からみた長期的な展望, 農業協同組合の今日的解釈と将来への展望, 全国農業協同組合中央会教育部, pp.13-15, pp.29-33, pp.62-63  
 高田理・高橋信正 (2005) : 農家の所得・消費構造と貧困の要因, インドネシア農村の貧困とその要

因の分析, 科学研究費補助研究, pp.141-153  
 高田理 (2005) : J Aの地域農業振興・活性化に果たすべき役割と営農経済事業体制の整備方向, J A愛知東地域農業振興・活性化の基本方向と営農経済事業体制整備に関する調査診断報告書, 社団法人農業開発研修センター, pp.116-129  
 高田理 (2005) : 地域社会で重要なのは使命の明確化とその遂行, 家の光協会, J A教育文化, 61, pp.10-11  
 高田理 (2005) : 組合員の目線に立った地域密着型の J A運営を, 家の光協会, J A教育文化, 60, pp.4-5  
 高田理 (2005) : 必要なのは適正で強いトップ・マネジメント, 家の光協会, J A教育文化, 59, pp.8-9  
 高田理 (2005) : J A運動の基礎となる組合員組織の

展開, 本台進編著, 通貨危機後のインドネシア農村経済, 日本評論社, 東京, pp.73-94  
 伊庭治彦 (2007) : 農業で楽しむ村の暮らし, 高橋信正・金澤洋一編著, 田舎のちから一人/資源/環境/交流一, 昭和堂, 京都, pp.32-41  
 伊庭治彦 (2005) : 地域農業組織の新たな展開と組織管理, 農林統計協会, 東京, pp.1-205  
 伊庭治彦 (2005) : 大規模水田農業経営のネットワークの機能と管理ーダイナミック・ネットワーク概念を視点として一, 金澤・納口・佐藤, 日本農業経営年報, 4, 農業経営の新展開とネットワーク, 農林統計協会, 東京, pp.215-228  
 伊庭治彦 (2004) : 産地ブランドを活用したマーケティングの展開, 高橋信正・奥村英一編, おもろい関西農業, 昭和堂, 京都, pp.140-151

興の課題ー地域水田農業ビジョンの制約条件を視点として一, 神戸大学農業経済, 38, 神戸大学, pp.1-8  
 伊庭治彦・本田恭子 (2005) : 地域資源の保全と防災機能に関する考察ー2004年台風23号の被災地域を事例として一, 神戸大学都市安全研究センター研究報告, 9, 神戸大学, pp.335-343  
 山下良平・星野 敏・伊庭治彦 (2005) : マルチエージェントモデルによる農地流動化要因の影響評価, 農村計画論文集, 7, pp.121-126  
 伊庭治彦・小田滋晃 (2005) : わが国のワイナリー経営と地域活性化の論理ー地方中小ワイナリーの事業多角化を視点として一, 日本ブドウ・ワイン学会誌, 116 (2), pp.60-67  
 山下良平・星野 敏・伊庭治彦 (2005) : マルチエージェントシステムを用いた集落営農シミュレーションモデルの開発, 農林業問題研究, 41 (1), pp.60-65  
 伊庭治彦 (2004) : 水田農業におけるコラボレーションの展開, 農林統計調査, 54 (3), pp.18-23

育成を、家の光協会、JA教育文化、58、pp.4-5  
 伊庭治彦・本田恭子（2006）：経営構造対策等地区モデル実態調査報告書、兵庫県農業会議、pp.1-21  
 伊庭治彦（2006）：野菜、花き、花木、茶部門の振興・再生に向けた取り組み方策、「JA 紀南地域農業振興・再生計画」策定支援実績報告書、（社）農業開発研修センター、pp.81-95  
 伊庭治彦（2006）：圃場整備事業の総合化と地域農業の組織化、平成17年度ほ場整備の総合化手法の効果予測等に関する調査報告書、日本農業土木総合研究所、pp.55-70  
 伊庭治彦（2006）：II.地帯別課題 地域農業組織の組織管理、安藤他、地域水田農業ビジョン実践強化参考事例集—水田営農専門研究会とりまとめ—、全国農業協同組合中央会、pp.89-96、pp.145-149  
 伊庭治彦（2006）：集落営農の組織再編と組織管理、NOSAI、全国農業共済協会、58（6）、pp.32-371  
 伊庭治彦・落合孝次・上田暢子・小田滋晃（2006）：ツーリズム・テロワーを軸としたワイナリー事業の新たな可能性1、日本ブドウ・ワイン学会誌、17（3）、pp.151-152  
 伊庭治彦・落合孝次・上田暢子・小田滋晃（2005）：ワイン産業の発展とツーリズム・テロワーその概念整理と日仏米比較—、日本ブドウ・ワイン学会誌、16（3）、pp.146-147  
 伊庭治彦（2005）：水田農業のあり方とJAの取り組み課題、JA 愛知東地域農業振興・活性化の基本方向と営農経済事業体制整備に関する調査診断

報告書、社団法人農業開発研修センター、pp.62-74  
 伊庭治彦・本田恭子（2005）：氷上地域における地域ブランドの確立について、平成16年度氷上地域広域農村整備事業基本調査報告書、社団法人日本アグリビジネスセンター、pp.24-76  
 伊庭治彦（2005）：ほ場整備による地域農業・地域産業への影響調査、平成16年度ほ場整備の総合化手法の効果予測等に関する調査（1）、ほ場整備の総合化手法効果予測報告書、日本農業土木総合研究所、pp.56-78  
 伊庭治彦（2005）：第4章近畿・滋賀県、梶井功他、米の生産コスト削減に係る調査報告書、全国農業協同組合連合会・（社）農協協会、pp.129-148  
 伊庭治彦・落合孝次・上田暢子・小田滋晃（2004）：わが国に於けるカスタム・クラッシュの課題と将来方向、日本ブドウ・ワイン学会誌、15（3）、pp.139-140  
 伊庭治彦（2004）：担い手経営の成長と集落営農の展開—氷上郡山南町・奥農用地利用改善組合を事例として—、兵庫県農業会議、pp.1-20  
 伊庭治彦・津崎洋介（2004）：氷上地域における集落営農の機能と展開方向、広域農村整備事業基本調査報告書』社団法人日本アグリビジネスセンター、pp.39-73  
 伊庭治彦（2004）：地域農業の振興と米政策対応のあり方、情報・気象合同研究会資料、近畿中国四国業研究センター、pp.13-21

## 2. 学術講演

高田理（2004）：農協の「協同会社化」—動向と論点—、日本協同組合学会大会、報告要旨、pp.18-23  
 仙田徹志、伊庭治彦、落合孝次、上田暢、小田滋晃（2007）：ブドウ栽培・ワイン醸造事業への新規参入を巡る動向と今日的課題、日本ブドウ・ワイン学会誌、18（3）、pp.123-124  
 北西さやか・伊庭治彦（2006）：地域独自の認証制度の機能に関する分析、日本有機農業学会2006年度大会、報告要旨、pp.48-50  
 伊庭治彦・本田恭子・小田滋晃（2006）：地域ぐるみ共同活動への参加意欲の形成要因と組織管理に関する考察、地域農林経済座学会2005年度大会、報告要旨、pp.35  
 伊庭治彦・本田恭子（2006）：農産物直売所への出荷行動の特性に関する考察、日本農業経営学会2006年度大会、報告要旨、pp.231-234  
 本田恭子・伊庭治彦（2005）：地域住民の地域資源保全活動への参加要因に関する考察—兵庫県丹波市の用水路・ため池の保全活動を事例として—、地域農林経済座学会2005年度大会、報告要旨、

p.102  
 山下良平・星野 敏・伊庭治彦（2005）：シミュレーションモデルを用いた農地流動化要因の影響評価、2005 年度農村計画学会学術研究発表会要旨集、pp.23-24  
 山下良平・星野敏・伊庭治彦（2004）：マルチエージェントシステムを用いた集落営農シミュレーションモデルの開発、地域農林経済学会、大会資料、p.79  
 伊庭治彦（2004）：地域農業の振興と米政策対応のあり方、近畿中国四国農業試験場研究推進会議研究会、リモセン等の戦略的情報利用による米政策支援、pp.13-21  
 Haruhiko IBA, Koji OCHIAI, Shigeaki ODA (2004): Wine Industry in Japan: Production, Distribution and Consumption, American Society for Enology and Viticulture 55<sup>th</sup> annual Meeting, Program & Exhibit Product Directory, General industrial Poster session, p.43

## 3. 博士・修士号取得者の氏名および論文題名

修士（2007年3月）  
 都春梅: JA高齢者福祉事業の課題と展開に関する研究 — JA 兵庫六甲の高齢者生活支援の取り組み

みを事例として—  
 中井一志: 耕作放棄の発生要因に関する考察—「評判」の機能を視点として—

修士 (2006 年 3 月)  
大原貴子:異種農業経営者間の資源の相互活用を図る

組織マネジメントに関する研究

#### 4. その他の学術研究活動

##### 研究助成金

科学研究費補助金基盤研究(C) (一般), 高田理 (分担):  
地域農業支援と関係機関のワンフロアー化に関する研究, 2007-2008 年度  
科学研究費補助金基盤研究(A)(1), 高田理 (分担):  
欧州諸国における農業組織の発展と人材開発・確保に関する国際比較研究, 2002-2005 年度  
科学研究費補助金基盤研究(B)(2), 高田理 (分担):  
インドネシア農村の貧困とその要因の分析, 2002-2005 年度  
科学研究費補助金基盤研究(B)(2), 高田理 (分担):  
日本を含むアジア諸国の食料自給率の動向と農業の対応, 2002-2005 年度  
科学研究費補助金基盤研究(C), 伊庭治彦 (分担): 政策転換期における集落営農組織の統合に関する組織論的研究, 2007-2009 年度  
科学研究費補助金基盤研究(C), 伊庭治彦 (代表): 地

域農業支援と関係機関のワンフロアー化に関する研究, 2007-2008 年度  
受託研究, 伊庭治彦 (代表): 地域農業の振興のための多角的な事業展開に関する研究 (福崎町), 2006 年度  
研究成果公開促進費 (学術図書), 伊庭治彦 (代表): 地域農業組織の新たな展開と組織管理, 2005 年度  
科学研究費補助金基盤研究(A)(1), 伊庭治彦 (分担): 欧州諸国における農業組織の発展と人材開発・確保に関する国際比較研究, 2002-2005 年度  
科学研究費補助金基盤研究(B)(1), 伊庭治彦 (分担): ワイン・ビジネスの展開とそれを取り巻く社会・経済環境に関する国際比較研究, 2002-2004 年度

##### 受賞

伊庭治彦 (2005): 地域農業組織の新たな展開と組織管理, 農林統計協会, pp.1-205, (2006 年度日本農業経営学会賞学術賞受賞)  
伊庭治彦 (2002): 地域農業組織の多様性と組織再編

の効率性に関する分析—インフルエンス・コストを視点とする接近—, 農林業問題研究, 147, pp.22-33, (2004 年度地域農林経済学会賞学会誌賞受賞)

##### 学会活動

高田理: 兵庫県政学会評議員, 2003 年度-  
高田理: 地域農林経済学会常任理事, 2006-2008 年度  
高田理: 日本農業経営学会理事, 2003-2005 年度  
高田理: 地域農林経済学会常任理事, 2002-2004 年度  
高田理: 日本協同組合学会理事, 2002-2004 年度  
高田理: 日本フードシステム学会理事, 2002-2004 年

度  
伊庭治彦: 地域農林経済学会常任理事, 2006-2008 年度  
伊庭治彦: 地域農林経済学会常任理事, 2002-2004 年度

##### 社会活動

高田理: (社) 兵庫みどり公社アドバイザー, 2003-2005 年度, 2005-2007 年度, 2007-2009 年度  
高田理: 兵庫県・遊休農地等を活用したバイオマス燃料検討委員会委員・会長, 2007-2009 年度  
高田理: 神戸市・神戸市中央卸売市場業務運営協議会委員・会長, 2004-2006 年度, 2006-2008 年度  
高田理: 神戸市・神戸市中央卸売市場青果部運営審議会委員, 2004-2006 年度, 2006-2008 年度  
高田理: 全国農業協同組合中央会・J A 研究表彰奨励選考委員会委員, 2006-2007 年度, 2007-2008 年度  
高田理: (株) 農林中金総合研究所・「農林金融」評議委員会委員, 2007-2008 年度  
高田理: 神戸市・神戸市中央卸売市場機能等検討委員会委員, 2006 年度-  
高田理: 兵庫県・遊休農地等を活用したバイオマスエネルギー利用検討委員会委員, 2006-2007 年度  
高田理: 兵庫県・卸売市場審議会委員, 2002-2004 年

度, 2005-2007 年度  
高田理: 京都府・農の担い手確保・育成アクションプラン政策検討会委員, 2006-2007 年度  
高田理: (社) 農業開発研修センター参与, 2006 年度-  
高田理: 近畿農業協同組合研究会運営委員, 1990 年度-  
高田理: 神戸市・神戸市市場取引委員会委員・会長, 2005-2007  
高田理: 兵庫県・東播磨地域農林水産ビジョン検討委員会委員・会長, 2005-2006 年度  
高田理: 神戸市・神戸市中央卸売市場本場再整備事業者選定審査委員会委員, 2004-2005 年度  
伊庭治彦: 滋賀県施策・事業仕分け会議委員, 2006-2007 年度  
伊庭治彦: 兵庫県西播磨県民局, 『食と悠の郷』構想策定委員会委員, 2002 年度-



## 食料情報学分野

食料情報学では、世界や日本に見られる食料・環境問題とそれらの有効な解決方法や、食料・農産物流通システムのあり方などの課題について、主として統計情報やインターネット情報の利用、実態調査による研究を行っており、具体的には下記のとおりである。(1) 食料消費・摂取統計や地域別統計を対象として、食料・農業の政策立案・評価の基礎資料となる統計情報の真実性確保や国際比較の可能性についての研究を行っている。

(2) 日本及びイギリスの農業・食料などの統計情報の収集過程対象として、統計情報の作成過程と、その背景としての国家・社会・政治状況との歴史的文脈について研究を進めている。(3) インドにおける有機農産物および有機農薬であるニームの農民への普及過程について、研究を進めつつある。(4) 食品安全行政と食料の安心に関する研究も進めつつある。(5) 急激に進んでいる食品小売業の再編とそれが食料・農産物の生産・流通システムに与える影響について、統計情報やインターネット情報の利用や実態調査などに基づいた研究を行っている。(6) 米と青果物を対象に、政策や流通の変化とそれのもとで産地マーケティングの展開方向について、統計情報の利用や産地・流通業者・卸売市場の実態調査などに基づいた研究を行っている。(7) 日本、中国、韓国、台湾を対象に、東アジアにおける生鮮食料品流通システムの変化と農民組織の形成・展開過程に関する比較研究を、統計情報やインターネット情報、中国・韓国・台湾での実態調査などに基づいて行っている。

## 1. 公表学術論文

### 著書

- 小野雅之 (2007) : 女性パワーが目覚めれば, 高橋信正・金澤洋一編著, 田舎のちから一人／資源／環境／交流一, 昭和堂, 京都, pp.51-60
- 小野雅之 (2007) : だだちゃ豆で田舎をおこす, 高橋信正・金澤洋一編著, 田舎のちから一人／資源／環境／交流一, 昭和堂, 京都, pp.107-116
- 小野雅之 (2006) : わが国農林水産業の動向, 加藤義忠監修・日本流通学会編, 現代流通事典, 白桃書房, 東京, pp.194-195
- 小野雅之 (2006) : 農産物市場・流通政策, 加藤義忠監修・日本流通学会編, 現代流通事典, 白桃書房, 東京, pp.198-199
- 坂下明彦・朴紅・小野雅之 (2006) : 村民委員会組織型の原料集荷体制, 坂爪浩史・朴紅・坂下明彦編著, 中国野菜企業の輸出戦略ー残留農薬事件の衝撃と克服過程一, 筑波書房, 東京, pp.45-65
- 朴紅・坂下明彦・小野雅之 (2006) : 中間商人・一次加工業者利用型の原料集荷体制, 坂爪浩史・朴紅・坂下明彦編著, 中国野菜企業の輸出戦略ー残留農薬事件の衝撃と克服過程一, 筑波書房, 東京, pp.23-44
- 小野雅之 (2006) : WTOのもとでの米政策と米流通, 橋本卓爾・大西敏夫・藤田武弘・内藤重之編著, 食と農の経済学 (第2版), ミネルヴァ書房, 京都, pp.81-94

### 原著論文

- 小野雅之 (2007) : 米市場変革期における産地マーケティング戦略の課題, 農業経営研究, 44 (4), pp.37-46
- 小野雅之 (2007) : 全農米穀事業改革は功を奏するの

- 小野雅之 (2005) : 農業者によるネットワーク型米販売事業体の形成ー「庄内こめ工房」の展開過程一, 納口るり子・佐藤和憲編集, 農業経営の新展開のネットワーク, 農林統計協会, 東京, pp.19-31
- 小野雅之 (2004) : お得意さんは地元消費者ー兵庫六甲農協の米独自マーケティング一, 高橋信正・奥村英一編, おもしろい! 関西農業ーその源泉を探る一, 昭和堂, 京都, pp.126-139
- 小野雅之 (2004) : カントリーエレベーターを拠点とした米マーケティングー山形県JAあまのめ事例一, 高橋正郎・稲本土良編集, 地域営農の展開とマネジメント, 農林統計協会, 東京, pp.214-222
- 金子治平 (2007) : 第1編Ⅳ 統計の真実性, 第2編Ⅲ 食料, 良永康平・御園謙吉編著, よくわかる統計学Ⅱ経済統計編, ミネルヴァ書房, 京都
- 金子治平 (2007) : VII 母集団と標本, IX 統計的検定, X 標本調査法, 金子治平・上藤一郎編著, よくわかる統計学Ⅰ基礎編, ミネルヴァ書房, 京都
- 金子治平 (2005) : 国勢調査と事業所・企業統計調査による産業別人口と地域経済, 地域経済と人口統計研究会編, 地域経済と人口統計に関する研究, 財団法人統計情報研究開発センター, 東京

- か, 農業と経済, 73 (3), pp.49-58
- 大西千絵・小沢互・金成學・小野雅之 (2006) : 農産物直売活動における生産者と消費者との距離ー販売活動の主体の違いに着目して一, 2006 年度

- 日本農業経済学会論文集, pp.111-118
- 大西千枝・小野雅之 (2006): 「市」の特徴を活かした直売活動の展開戦略に関する考察, 東北農業経済研究, 24 (1), pp.1-10
- 小野雅之 (2006): 2004 年卸売市場法改正の特徴と歴史的意義に関する商業論的考察, 神戸大学農業経済, 38, pp.9-16
- 大西千枝・小沢互・小野雅之 (2006): 直売グループ参加農家の販売チャネルの拡大とその意義—山形県金山町夢市グループを事例として—, フードシステム研究, 12 (3), pp.13-25
- 藤科智海・小沢互・小野雅之 (2005): 立川町地域資源循環システムに対する一般家庭の負担感, 東北農業経済研究, 23 (2), pp.127-132
- 小野雅之 (2005): 流通再編と東北の米, 東北農業経済研究, 23 (2), pp.15-24
- Saediman, M.Ono (2004): Operational Characteristics of the Joint Buying System in Japan's Consumer Co-operatives, Jurnal Sosail Ekonomi Pertanian, 14, pp.51-60
- Saediman, S.Ibrahim, R.Patria and M.Ono (2004): Marketing Margins of Vegetables in Kendari of Southeast Sulawesi, Indonesia, 2004 年度日本農業経済学会論文集, pp.434-440
- 小野雅之・小沢互 (2004): 商業統計調査からみる食品流通, 農林統計調査, 54 (5), pp.11-17

#### その他の学術論文等

- 小野雅之 (2007): 新政策下のコメ主産地と流通の再編動向, 協同組合研究, 26 (2), pp.2-5
- 小野雅之 (2007): J A グループの米穀事業の問題点と課題は何か, 地域農業と農協, 36 (4), pp.39-48
- 小野雅之 (2007): 米市場変革と産地マーケティング, 農業, 1492, pp.52-71
- 小野雅之 (2005): 2004 年卸売市場法改正の歴史的位置, 農業市場研究, 62, pp.29-32
- 金子治平・池田伸・住本雅洋・米澤香・安井浩子 (2007): 国際比較可能な統計データの提供—雇

- Joshi Abhey・Kaneko Jihei (2007): Farmer's adoption of neem as an organic pesticide in Nagpur, India: A case study of "The Neem Foundation" activities, 農林業問題研究, 164, pp.252-255
- 米澤香・金子治平 (2007): 統計調査別の所得分布について, 統計学, 93, pp.20-34
- 金子治平 (2006): 統計の社会的役割と統計行政改革, 農業と経済, 72 (8), pp.54-64
- 金子治平 (2006): 統計の作成・公表・利用における公共性, 統計学, 90, pp.3-14
- 山下裕歩・金子治平・杉橋やよい (2006): 日本における男女別の就業形態選択行動, 神戸大学農業経済, 38, pp.25-32
- 金子治平・杉橋やよい・山下裕歩 (2006): 正規雇用者男女間所得格差の要因分解法とその結果, 神戸大学農業経済, 38, pp.47-50
- 金子治平・杉橋やよい・山下裕歩 (2005): 雇用形態別にみた男女間所得格差の変化, 法政大学日本統計研究所報, 34, pp.1-19
- 金子治平・杉橋やよい・山下裕歩 (2005): 正規・非正規労働者の年間所得格差の要因分解, 大阪市立大学季刊経済研究, 28 (1), pp.19-31
- 杉橋やよい・金子治平 (2004): 日本とイギリスにおける男女間の賃金/所得格差の要因分析, 法政大学日本統計研究所研究所報, 32, pp.137-159

- 用指標と家計調査—(家計調査の日英比較), 統計分析プロジェクト研究会報告書—平成 18 年度—, pp.93-110
- 金子治平 (2006): 農業統計の作成と利用を考える, 地域農業と農協, 36 (1), pp.4-7
- 加古敏之・金子治平 (2005): 中越地震災害時における食料問題と農業関連被害, 平成 16 年度突発災害調査報告書, 神戸大学都市安全研究センター, pp.93-103

## 2. 学術講演

- 小野雅之 (2007): コメ需要の変化と産地マーケティング, 日本作物学会北陸支部第 44 回シンポジウム
- 殷楽・小野雅之 (2007): 中国における食糧流通システム転換中の国有食料企業改革に関する一考察—河北省を事例として—, 日本農業市場学会 2007 年度大会
- 小野雅之 (2006): 米市場変革期における産地マーケティング戦略の課題, 2006 年度日本農業経営学会研究大会シンポジウム
- 小野雅之 (2006): 食生活の変化と食品流通, 日本調理科学会近畿支部研究会
- 小野雅之 (2006): 新政策下のコメ主産地と流通の再編動向, 日本協同組合学会第 26 回大会地域シンポジウム

- 大西千絵・小沢互・金成学・小野雅之 (2006): 「市」と直売所における性格の相違点と今後の展開方向, 2006 年度日本フードシステム学会大会
- 大西千絵・小沢互・金成学・小野雅之 (2006): 農産物直売活動の社会的距離に関する研究—山形県の「市」と直売所を事例として—, 2006 年度日本農業経済学会大会
- 小野雅之 (2006): 米政策・流通の現段階と産地マーケティング, 農業理論研究会研究例会
- 小野雅之・目黒愛子 (2005): 地域特産野菜ブランド化によるマーケティング戦略の展開—山形県鶴岡市だだちゃ豆を事例として—, 日本農業市場学会 2006 年度大会
- 藤科智海・小沢互・小野雅之 (2004): 立川町地域資源循環システムに対する一般家庭の参加意識,

第40回東北農業経済学会  
小野雅之(2004):流通再編と東北の米,第40回東北農業経済学会シンポジウム  
大西千絵・小野雅之(2004):直売グループ参加農家の販売チャネルの拡大とその意義ー山形県金山町夢市グループを事例として,2004年度日本フードシステム学会大会  
Joshi Abhey・Kaneko Jihei(2006):Farmer's adoption of neem as an organic pesticide in Nagpur, India: A case study of "The Neem Foundation" activities,第56回地域農林経済学会大会報告要旨,p.120  
米澤香・金子治平(2006):統計調査別の所得分布に

ついて,経済統計学会第50回全国研究総会報告要旨集,pp.8-9  
金子治平(2006):最近の農林統計の動向について,統計研究会  
金子治平(2005):統計の作成・公表・利用における公共性,経済統計学会第49回全国研究総会  
金子治平・山下裕歩・杉橋やよい(2005):女性と男性の所得及び就業構造の分析,ミクロ統計活用研究会研究結果報告会  
金子治平・杉橋やよい・山下裕歩(2004):所得関数の推定による男女間の所得格差の要因分析,ミクロ統計活用研究会研究結果報告会

### 3. 博士,修士号取得者の氏名および論文題名

修士(2007年3月)

秦志軍:農業統計の正確性に関する研究

修士(2005年3月)

JOSHI ABHAY YASHWANT: NGO's Activities to Promote Neem Use in Agriculture in India: A Case Study of "Neem Foundation" in Nagpur, Maharashtra

### 4. その他学術研究活動

#### 研究助成金

科学研究費補助金基盤研究(B),小野雅之(代表):卸売市場制度「大転換」期における卸売企業の商業機能拡充の態様に関する実証的研究,2006-2008年度  
科学研究費補助金基盤研究(C),小野雅之(分担):農業経営のネットワーク組織と農業経営者の主体形成に関する研究,2006-2008年度  
科学研究費補助金基盤研究(B)(2),小野雅之(分担):米産業の競争構造とマーケティング対応型産地再編戦略に関する研究,2004-2006年度  
科学研究費補助金基盤研究(B)(1),小野雅之(代表):大競争時代におけるスーパー生鮮食品マーチャ

ンダイジングの類型論的・動態的研究,2002-2004年度  
科学研究費補助金基盤研究(B)(1),小野雅之(分担):「原料・原産地表示」義務下における食品産業と国内農業との連携可能性,2002-2004年度  
受託研究,小野雅之(分担):広域農村総合整備基本調査(有田地域),2005年度  
米販売戦略研究奨学寄付金,小野雅之(分担),2007年度  
篠山市と神戸大学との官学地域連携研究,小野雅之(分担):黒大豆を基軸とした地域産業複合体形成の可能性に関する研究,2007年度

#### 学外研究機関との共同研究

小野雅之:山形大学農学部・宮城大学食産業学部,JA山形中央会,米販売戦略に関する研究,2007年度  
小野雅之:篠山市,黒大豆を基軸とした地域産業複合体形成に関する研究,2007年度

小野雅之:中国遼寧省農村経済研究所,農民共同組織の形成・展開に関する日中共同研究,2004-2007年度  
金子治平:統計情報研究開発センター,国際比較可能な統計データの提供一家計調査と雇用指標ー

#### 受賞

小野雅之:地域農林経済学会特別賞,2005年

#### 学会活動

小野雅之:日本農業市場学会理事(学会賞選考委員),2004-2007年度  
小野雅之:日本流通学会企画委員,2004-2007年度  
小野雅之:地域農林経済学会常任理事(企画担当)

2007-2008年度  
小野雅之:東北農業経済学会理事,2006-2007年度  
金子治平:地域農林経済学会常任理事(編集担当)  
金子治平:経済統計学会全国運営委員(本部事務局)

#### 社会活動

小野雅之:尼崎市公設地方卸売市場運営委員会委員,2007-2008年度  
小野雅之:社団法人札幌農学振興会関西支会理事,2006年度-

小野雅之:やまがた夢未来サポーター,2005-2006年度  
小野雅之:兵庫県酪農肉用牛生産近代化計画検討委員会委員,2005年度

小野雅之：山形県農業・農村政策審議会委員，2005

年度